

地ニアル者ハ該地郡役所又ハ戸長役場へ本人ノ行狀ヲ監視セシメ可然哉北海道ノ義ハ治罪ノ手續等モ便宜處分ノ義公布相成居當縣下ノ如キ殊ニ内地ト同軌ノ處分ニ至リ兼候現況ニ有之候間景狀御洞察相成度候

指令

何ノ通

理由内務司法兩卿ヨリ大政官へ仰允裁候上右指令ヲ附

ヲル

○札幌縣 十五年八月三日同
全年十月四日内務省合議

輕罪ノ刑ニ於テ監視セラレシ者其期限間公權ヲ停止スルハ勿論ナリ然ルニ曾テ他ニ貸金若干圓アリテ負債主ニ於テ義務ヲ果サハルヨリ自カラ法衙ニ訴フル者アリ右ハ刑法第三十條各項ニ正條ナシ且治産ノ禁ヲ受ケタル者ニ非サル上

無論犯罪ノ限ニ無之儀ト心得可然哉

指令

何ノ通

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時獄司ヨリ犯人ヲ其住所ノ地ノ警察ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

十五年八月十二日布告第四十二號ヲ以テ左ノ通改正

第二十二條 監視ニ附ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致シ監視ヲ執行セシム但主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ附スル

者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ護送ス可シ

○和歌山縣 十五年一月十日
全年全月廿五日指令

第一條客歲十二月第六十七號御布告刑法附則第二十二條及
ヒ第四十二條等ニ掲ケラレタル典獄ヨリ犯人ヲ警察所ニ護
送スルハ押丁ヲシテ執行セシムル義ニ候哉或ハ護送人ヲ附
スルニ及サル者ニ候哉

指令

第一條押丁又ハ護送人ヲ以テ護送セシム可シ

○京都府 十五年同
全年指令

第法附則第二第三章中警察所トアルハ警察分署又ハ交番所
ヲ含有シタルヤノ伺(伺文零ス)

指令

伺之趣刑法附則中警察所トアルハ警察署及ヒ警察分署ヲ指

稱シタル義ト心得可シ

○滋賀縣 十五年一月十九日伺
同年三月廿八日指令

第一條第二章第三章警察所トアルハ警察署又ハ警察分署ヲ
モ包含シタル旨趣ニ候哉果シテ然ラハ本縣ノ如キハ未タ分
署受持區畫制定不致如何取扱可然哉

指令

第一條分署受持區畫制定マテハ適宜ニ取計フハシ

○水更津始審廳檢事 十五年二月十日請訓
全年三月廿日內訓

刑法附則第二十二條監獄則第十條囚人護送手續第一條ニ因
レハ体刑ノ言渡ヲ受ケタル囚人ハ檢事ニ於テ處刑宣告書ノ
謄本又ハ拔書ヲ付シ監獄署ニ回送スヘキニ似タリ右ノ附加
ノ監視ニ處セラレシモノ又ハ新ニ入監スル者及ヒ護送ノ囚
人ニ限ル可キ歟將タ体刑ヲ受ケタル囚徒ニハ總テ添付スヘ

キ者ニ候哉

内訓

檢察官体刑ノ言渡ヲ執行セシムル片ハ必ス裁判官言渡ノ體本若クハ振書ヲ執行爲ス可キ者ニ交付スル儀ト心得ルベシ

○京都府 十五年三月三十一日伺
全年四月十五日指令

第五條刑法附則第二十二條ニ監視ニ附ス可キ者ハ豫メ住所ヲ定メシメ云々ト有之此住所トアルハ本籍寄留止宿所(自宅取入アル者若クハ別ナク本人カ以後住所ト定ムル旨申出ル場所)ト心得可然哉

指令

伺之通

○神奈川縣

十五年三月十五日伺
全年四月四日内務省合議

刑法附則第二十二條ニ監視ニ附スヘキ者ハ(中略)其住居ノ地

ノ警察署へ護送云々ト全第二十四條ニ一日程ヲ過クハ者(中略)ハ最近ノ警察署ニ護送云々トアリ就テハ當縣監獄ノ如キハ平常囚員ノ過半ハ外役ニ服セシメ隨テ護送者モ亦多分ヲ要シ兼テ看守人ノ不足ヲ生シ困難罷在候處加フルニ本年一月中役場回祿ニ罹リ又一層ノ外役ヲ増シ戒護人員配置殆シキ方法盡キ居候處前顯果ノ一日程以内ニ居住ノ警察署迄護送スルコトセハ監視執行ヲ爲ス可キ者或ハ一日ニ數名ニ及ブモ絶テ無之ノ日ハ稀ニシテ且一犯人毎ニ各別護送者ヲ要スル事情不鮮護衛ノ多分ヲ要スル如斯次第ニ有之候右ハ居住地ノ遠近ニ拘ハラス都テ最近ノ警察署へ護送可致様致度指令

伺之趣實際已ムテ得サル場合ニ於テハ當分ノ内聞届候事

○千葉縣

十五年五月八日伺
全年六月内務省合議

第一條刑法附則第二十二條前畧主刑ノ終リタル時犯人ヲ其住居ノ地ノ警察署ニ護送シ云々又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ附スル者ハ其裁判所ノ検査官ヨリ警察署ニ護送スヘシトアリ依テ同則第二十三條監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書ハ主刑ノ終リタル監視者ニハ典獄ニ於テ其文書ヲ調製シ止タ監視ニ付スル者ニハ検査官之ヲ調製スル儀ト相心得候處右文書悉皆検査官ニ於テ調製ノ向モ有之處分方區々ニ步リ差支候條如何取扱可然乎

第二條刑期滿限ノ者解放又ハ既決囚ニシテ死亡ノ者ハ原裁判所及ヒ検査官ニ通報スルノ手續監獄則ニ無之明治十二年十月御省乙第四十五號御達ノ旨モ有之義ニ付行政ノ處分ニ止マル義ト相心得可然乎

指令

第一條前段見込ノ通

第二條伺之通

○大坂府

十五年七月十九日同
全年八月三日指令

第一條附加刑監視ノ執行ハ警察官ノ責任ニシテ刑法附則第二十二條ニ據リ犯人ヲ警察官ニ交付シタル上ハ司獄官ニ於テ毫モ關係無之儀ト相心得可然哉

指令

第一條伺之通

○三重縣

十五年八月廿三日同
全年十月二十一日指令

第一條刑法附則第二章中ニ散見スル警察所トハ警察署及ヒ其分署ヲ指稱シタルモノトハ存候得共當縣ノ如キハ該分署内延長十餘里ニ渉ルノ箇所往々有之被監視者ハ處刑人ナリトハ乍申毎月警察署へ往復スル困却不勘殊ニ其貧窶者ノ如

キニ至テハ右往復スル時間ハ家業ヲ休止スルヲ以テ生計ニ
差支候已而ナラズ又路費モ無之遂ニ不參スル者可有之然ル
ニ該署部内ニハ數箇ノ巡查交番所ヲ配置シ必ス舊一等巡查
ヲ派遣シテ警部代理トナシ之ニ巡查數名ヲ所屬セシムルヲ
以テ名ハ交番所ナリト雖モ其實ハ隣府縣ノ分署ニ異ナラス
故ヲ以テ便宜ニ從ヒ右交番所モ前縣警察署同様監視ノ事務
爲取扱候モ妨ケ無之ヤ

指令

交番所ニ於テ監視ノ事務ヲ取扱ハシムルヲ得ス

○滋賀縣

十五年五月十七日
同年六月二日指令

第一條 禁錮ノ囚ニシテ主刑滿期ノ未監視六月ノ刑ヲ附加セ
テトタルヲ司獄官ニ於テハ單ニ本期ノミト心得既ニ該主刑
期滿放免ノ日ニ至リ誤テ監視ヲ執行セシムヘキノ手順ヲナ

カニ解放シ即時其失誤ヲ心付キ直チニ之ヲ引戻サシメ
ニ最早形跡ヲ失ヒ終ニ得ル能ハスト雖モ素ヨリ本犯カ自ラ
刑ノ執行ヲ逃カレタルニ非サルナレハ司獄官ニ有テハ先ツ
之レカ住籍戸長ニ右事實ヲ照會シテ更ニ本人ヲ獄署ニ出頭
セシメ可然カ將司獄官ハ獨リ其監視ヲ執行セシム可キノ手
順ヲナスニ止マル者ナレハ本犯カ自ラ刑ノ執行ヲ逃レタル
ト否ナトニ別ナク既決囚ノ逃走セシ場合ノ手續キニ比準シ
速ニ所轄輕罪裁判所ノ檢事ニ通告シ同官ノ處分ニ任カセ可
然義ニ候ヤ

第二條 前條ノ場合ニ於テ本犯カ自カラ獄署ニ出頭スルカ若
クハ檢事ヨリ更ニ引致セラル、片ハ嚮ニ司獄官ノ誤認ヨリ
放ダレタル者ナレハ主刑期滿放免ノ日則チ現ニ監視ヲ執行
スヘキノ當日ヨリ通シテ起算スヘキ義ニ候カ又ハ斯ク通算

セシテ更ニ本犯ヲ得ルノ日ヨリ右監視ノ刑期ヲ起算シ全
ク六月ヲ執行致シ可然カ至急何分ノ御指揮相仰候也

指令

第一條引戻ス可キ者ハ之ヲ引戻シ相當ノ手續ヲ爲ス
可シト雖モ若シ其犯人遠地ニ在ルルハ典獄ヨリ其管轄地ノ
警察署ニ監視執行ノ手續ヲ囑托スルコトヲ得ヘキ者トス但犯
人ニ於テ引戻ス可キ者ナルカ若クハ其踪跡不分明ナル場合
ニ於テハ所轄檢事ニ通告シ其處分ニ任スヘシ
第二條現ニ監視執行ノ手續ヲ爲シタル日ヨリ起算スル義ト
必得可シ

○兵庫縣 十五年八月 日伺
全年九月五日指令

第一條監視ニ付ス可キ犯人ハ其主刑ノ終リタル時刑法附則
第二十二條ニ依リテ典獄ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察署ニ

護送スヘキニ誤テ直ニ放免セリ因テ犯人ハ歸郷彷徨セシテ
警察官ニ於テ覺知シ取押監視ヲ執行シタリ而シテ官吏ノ錯
誤ハ相當懲戒處分スヘキハ勿論ナリト雖モ其主刑ノ終リタ
ル日ヨリ警察官ノ發見セシ日マテノ日數ハ監視規限ニ算入
スルヲ得サル儀ニ有之候ヤ

第二條前條若シ監視期限ニ算入スヘキ者トスルモ犯人其官
吏ノ失誤ヲ奇貨トシ逃亡スル時ハ其逃亡中ノ日數ハ無論監
視期限ニ算入スルヲ得サル儀ニ有之候ヤ

指令

第一條現ニ監視執行ヲ爲セシ日ヨリ其期限ヲ起算ス可シ
第二條前條指令ニ依リ了解ス可シ

○岡山縣

十五年十月四日伺
全年十月十六日指令

主刑單ニ罰金ニ該リ尙ホ附加刑監視ノ言渡アリタル時ハ其

犯人ヲ警察署へ護送スルハ果シテ何官ナルヤ稍ヤ性質ニ於テ異ナル所アレハ刑法附則第二十二條但書ニ從ヒ檢察官ヨリ發スルモノトスルナランカ前條果シテ檢察官ヨリ發スルモノタルトキハ固ヨリ罰金ノ刑ニ該ルモノハ代人ニ裁判言渡ヲナスヲナシトセス然ルハ此等ハ如何ノ手續ヲナシ可ナラン乎或ハ此場合ニ限り書面ノミヲ以テ送致スルモ妨ケナキ哉

若シ書面ヲ以テ送致シテ可ナリトスルハ路券ヲ要セサル一日程ノ外數日程ヲ懸隔シタル地ニ於テ裁判言渡アリタル者滿刑起算ノ方法ハ孰レヲ區界トシテ可然乎
右ハ法文ノ遺欠アル義歟反覆推考候得共彼是疑團決シ兼候ニ付相伺候
指令

何之趣監視ハ体刑ニ附加スルニ止リ單ニ罰金ニ該ル者ハ之ヲ附加セザル儀ト心得ヘシ

○岡山縣 十五年十月廿五日何
全年十一月十五日指令

本月四日付テ以テ監視規則之儀ニ付相伺候處則チ去十六日何ノ趣監視ハ体刑ニ附加スルニ止リ單ニ罰金ニ該ル者ハ之ヲ附加セザルニ儀ト心得ヘシト御指令相成候處刑法第百九十九條及ヒ第二百一條ニ明文アリテ何分御指令之趣了解難致且ツ裁判言渡ノ後確定時間ハ如何取計可然哉此段モ併シテ再度相伺候

指令
何之趣單ニ罰金ニ處スル者ハ監視ヲ附加セザル刑法ノ精神ト心得ヘシ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スヘキ者モ確定マテハ執行ス可カラス

但主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ再ヒ監視ノ言渡ヲ爲サ、
ルヲ以テ管轄裁判所檢察官ヨリ直ニ護送ス可キ儀トス、

○前橋輕罪廳檢事 十五年十月廿六日何
全年十一月十五日指令

第三條明治十五年第十號公達囚人護送手續ハ本省ヘノ達ニ
アラサレハ裁判所ニ於テ該手續ニ準據セサルハ勿論ナルカ

指令

第三條何之通

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿

期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附スヘシ

○鹿兒島始審廳長判事 十五年二月十七日何
全年全月廿二日指令

監獄則第十條新ニ入監スル者アルルハ典獄先ツ云々又ハ處
刑宣告書等ノ文書ヲ查閱シ云々又刑法附則第二十三條犯人
ヲ警察署ニ護送スルルハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文

書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シト有之候處右謄本ハ總
テ裁判言渡書ノ全文ヲ謄寫シ交付ス可キ者トセハ典獄ニ於
テハ蓋シ實際格別ノ功用ナクシテ書記局ノ手數大ニ増加シ
隨テ許多ノ人員ヲ要スヘキニ付該謄本ハ受刑者ノ氏名年齢
身分職業住所出生ノ地及犯罪事件犯罪ノ地適用シタル法律
規則言渡シタル刑等ヲ摘記シタル拔書ヲ作り交付シ可然哉

指令

何ノ通

○大阪府 十五年七月十九日何
全年八月三日指令

第二條刑法附則第二十三條ニ犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ
其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本
ヲ附スヘシト有之右起算滿期トハ主刑ノ終リタル日ヨリ監
視ニ付ス可キ月數(何年何月何日ヨリ監視
何月ト記載スルノ類)ヲ記載シタル文書ト相心

得可然哉又ハ滿期ノ日限迄モ計算(何年何月何日ヨリ何年何月何日)記載
可致義ニ候哉(迄監視何ヶ月ト記載スルノ類)

指令

第二條起算ノ日并滿期ノ日限ヲモ記載スヘキ者トス

(理由第二條刑法附則第二十三條其監視ノ起算滿期トハ主

刑ノ終リタル日ヨリ監視ニ付ス可キ月數并ニ監視ヲ終ル

日限ヲモ記載ス可キ者トス

第三條第二條後項ノ如ク滿期ノ日限迄モ記載スルモノトセ

本日數誤算等ニ係ル過誤ハ監視ノ主管タル警察署ニ歸スヘ

キ哉將タ文書ヲ發シタル司獄官ニ歸スヘキ哉

指令

第三條過失ノ責ハ期限ヲ記載シテ交付スル獄司ニ在リトス

○福岡縣

十六年十二月十一日同
廿六年十二月廿八日指令

刑法附則第二十三條犯人ヲ警察署ニ護送スルハ刑名宣告
書ハ謄本ヲ附スヘシトアルヲ以テ是迄裁判所ヨリ送附シタ
ル刑名宣告書ノ謄本ハ監獄署ニ止メ置キ之ヲ謄寫シテ警察
署ニ差回シ來リ候所監視ハ監獄署ニ於テ謄寫シタル宣告書
ヲ以テ執行スルハ穩當ナラサル様思考シ少シク疑義ヲ生シ
相伺候條至急何分ノ仰御指揮候也

指令

何之趣監視執行ハ裁判所ヨリ送致シタル刑名宣告書ノ謄本

ヲ以テ之ヲ爲ス可シ但監獄署ニ於テハ之ヲ謄寫シテ止メ置

ク儀下心得可シ

○茨城縣

十七年三月五日同
廿七年三月廿七日指令

監視ニ付セラレタル犯人ヲ警察署ニ護送スル時當縣ニ於テ

ハ是迄裁判所ヨリ送致ヲ受ケタル刑名宣告書ノ謄本ハ監獄

署ニ止メ置キ同署書記ナシテ之ヲ復寫セシメ其謄本ヲ以テ執行致シ來リ候處昨十六年十二月二十八日福岡縣ヘノ御指令ニ據レハ監視ノ執行ハ裁判所ヨリ送致シタル刑名宣告書ノ謄本ヲ以テ之ヲ爲ス可シトアレ共犯ノ被告人數名ニシテ其宣告書一通ナル時ハ各其住居ノ地ヲ異ニシ又刑期ハ長短アリテ之カ執行ヲ爲スニ際シ宣告書數通裁判所ヨリ送致ヲ受ケサルヲ得サル場合アルノミナラス主刑ノ終ルマテ數年間監獄署ニ宣告書ノ謄本ヲ保存スルニ散亂ノ患ナカラシメンカ爲メ簿冊ニ編纂ヲナサハルヲ得サルニ依リ裁判所ヨリ送致セラレタル宣告書ノ謄本ヲ警察署ニ送致スルハ太々不便ニシテ裁判所ト監獄署ニ於テハ頗ル手數ヲ煩ハシ實際差支ノ筋不勘ヲ以テ當縣ニ於テハ從前ノ如ク監獄署書記ヲシテ謄寫セシメ其謄本ニハ書記署名官印ヲ押捺シ而シテ官

署ノ印ヲ用ヒ之ヲ以テ監視ノ執行ヲ爲サシムルモ不苦候哉

指令

伺之趣共犯人アル場合ニ限り見込ノ通但其旨ヲ送致ス可キ謄本ニ記載ス可シ

第二十四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過クル者ハ獄司若クハ檢察官ヨリ先ツ其最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ノ住居ノ地ノ警察所ニ送致スヘシ

十五年八月十二日第四十二號公布ヲ以テ本條ヲ削除ス

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察署ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フベシ
犯人ヲ送致スルハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ

警察所ニ遞送スベシ

○島根縣 十五年一月廿六日何
全年二月廿一日指令

第二條全則第二十五條ノ旅券全第二十六條ノ監視ノ票ハ一定ノ式御達相成候儀ニ候哉又ハ縣廳限リ適宜相定メ可然哉

指令

第二條後段何ノ通

○三重縣 十五年五月十五日何
全年五月廿六日指令

第二項同則第二十五條第三十條ニ前畧其里程ヲ計リ云々トアリ右里程ヲ計リ日數ヲ限定スルトハ犯人体格ノ強弱及犯人ヲ發送セントスル日ノ時ノ早晚ニ依リ便宜里程ヲ計リ日數ヲ定ムル儀ニテ別ニ一日行程トハ何里トノ御達ハ無之儀ト相心得可然哉

指令

第二項一日程トハ片道八里ノ儀ト心得可シ

○警視廳 十六年一月廿七日上申
全年二月二日内訓

刑法附則第二十五條ニ依リ監視ニ附セラル可キ者ハ旅券ヲ附與シ送致送途中本人逃亡セシ場合ニ於テハ現ニ監視ノ執行ヲ爲ス可キ地ノ警察署ニ於テ治罪ノ手續爲致置候得共他府縣ニテハ其取扱區々ニシテ實際差支ヲ生シ候條一定ノ取扱ニ相成候様至急御訓示相成度此段上申候也

右ハ監視ニ付セラレタル者送致途中逃走セシ時逮捕手續ノ義ハ此迄本省御指令ニモ符合致候ニ付左ノ通各裁判所府縣へ御内訓及ハレ候哉

内訓

裁判所

府縣 東京府
ヲ除ク

監視ニ付セラレタル者住居ノ地ニ送致途中逃走シタル時
逮捕ノ儀ニ付別紙ノ通警視總監ヨリ上申候條右ハ監視ヲ
執行ス可キ地ノ官署ニ於テ逮捕ノ處分ニ及フヘキ義ト心
得可シ但被告人ノ申立タル地ニ住居ナキ者ハ送致ヲ爲シ
タル地ノ官署ニ於テ右處分ヲ爲ス可キ者トス此旨及内訓
候也

司法書記官ヨリ十六年二月十二日付警視總監へ通知書畧

ス

○内務省

十五年六月七日
大坂府へ訓示

凡監視ニ付セラレシ犯人ノ住所遠地ニ在テ一日程ヲ過クル
者其典獄若クハ檢察官ヨリ最近ノ警察署へ護送シ來ルルハ
法附則第十五條ノ手續ニ依ル可キ處中ニハ警察傳遞ヲ以
テ送致スル向モ有之ヤニ相聞候右ハ刑法附則ノ成文ニ背キ

且費用ニモ差響候ニ付右等ノ儀無之様可致爲念此旨訓示候

也

○茨城縣

十五年三月十七日内務省へ
全年六月三十日指令

刑法附則第二十五條第二項ニ犯人ヲ送致スル時ハ第二十三
條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察署ニ遞送スヘシトアリ其
書類ヲ遞送スルヤ脚夫ヲシテ携行セシムルハ其費用ヲ要
スル少トセス故ニ郵便ニ托シ送附シ來候處或ハ線路ノ迂遠
ナルヨリ往々日子ヲ經過シ犯人ハ既ニ先方ノ地ニ到ルモ書
類ノ遲達スル爲メ該地警察署ニ於テ監視票ヲ作ルニ由ナク
取扱上差支候ニ付右等ノ場合ニ於テハ其被監視者ニ對シ豫
メ第二十七條ノ條件ヲ心得サセ假ニ監視ノ執行ヲナシ該書
類到達ノ日監視票ヲ作り付與スルモ不苦ヤ

指令

書面伺之通

○岐阜縣

十五年三月三十一日内務司法兩卿同
全年八月廿九日指令

第二項同則第二十五條及ヒ第二十九條ニ書類ヲ遞送スヘシ
トアリテ其手續分明ナラス一々脚夫ヲ雇フテ遞送スレハ其
費用實ニ少小ニアラス又郵便ニ付スレハ土地ニ依リテハ到
達スヘキ日數甚タ延滞スルコトアリ殊ニ避地ヲ然リトス然ル
ニ被監視人ハ里程ニ應シ旅行日數限定アル故ニ先ニ到着シ
テ所轄警察署ニ届出ルモ警察署ニ於テ右證據書類ノ到達延
滞ニ依リ監視票ヲ下付スル因由モナク如何トモ爲シ難キ場
合有之右ハ如何取計可然ヤ

指令

警察遞傳ハ郵便等費用ノ嵩マサル様適宜處辨スヘシ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期限間

遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付スヘシ

○岐阜縣

十五年四月十日内務卿同
全年五月三十日指令

第一條監視票ハ必ス警察署ニ於テ下付スヘキモノニシテ警
察分署ニ於テ下付スルコトヲ得サル乎又被監視人モ必ス警察
所へ出頭ナシテ認印ヲ受グルモノニテ分署ニテ認印ヲ受ク
ルヲ得サル乎

第二條族券モ警察所ニアラサレハ下付スルコトヲ得サル乎其
本人途中病氣等ノ節モ警察分署ノ證書ヲ受グルモ効ナキモ
ノ乎

第三條前二條共警察分署ニ於テ下付スルヲ得ル義ニ候ハ、
書式文中警察署ニ具申シ差出ス申請シ到ルコト等ノ警察署ノ
下ニ(又ハ分署)ノ文字ヲ加フルモ差支ナキ乎

第四條警察署ニ警部アラサレハ警部補氏名又ハ警部補モア

ヲサレハ警部代理ヲ肩書シ巡查氏名ヲ以テ監視又ハ旅券ヲ下付シ可然乎

第五條輪廓ノ模様用ノ紙寸法ハ御達ノ雛形ヲ定則トスヘキ乎

第六條刑法中監視ノ長期五ケ年アリ監視票ノ裏面認印表ハ五年ニ限レリ例セハ初年ノ三四月若クハ八九月監視ニ付セオレタル者六年目ノ二三月若クハ七八月迄ノ認印ハ何欄ニ押捺スヘキカ

第七條刑法中無期徒刑ノ假出獄ハ暫ク閣キ有期徒刑十五年ノ四分ノ三ヲ過キ直ニ特別監視ニ付セラレタルルキハ三年九ケ月ニ及フ然ルニ特別監視票裏面ハ四年ニ限レリ前條ノ如ク何欄ニ認印スキカ

指令

第一二條本年當省乙第三十一號達ノ通

第三條伺ノ通

第四條伺ノ通

第五條檢印スヘキ書欄盡キタルトキハ其理由ヲ記シ更ニ引換ヘシ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守スベシ

一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ但疾病又ハ已ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届クヘシ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス

三事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

四擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス若シ已ムヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受クヘシ

○栃木縣

十五年二月十二日同
全年全月二十四日付電報

刑法附則第二十七條第四項ニ他ノ地方トアルハ警察署管轄外ヲ云フカ又ハ縣ノ管轄外ヲ云フカ同第三十六條ノ場合ニ於テ假ニ監視ヲ免スルヲハ證據ヲ與フルヤ

指令

刑法附則第二十七條第四項他ノ地方トハ縣ノ管轄外ヲ云フ第三十六條ノ場合ニ於テハ同ノ通

○京都府

十五年二月廿五日同
全年三月十五日指令

第二條刑法附則第二十七條第二項ニ酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サストアルハ專ラ娛樂ヲ禁セラル、ノ精神ニシテ貸席業ヲ營ミ或ハ群集ノ場所ニ於テ商業ヲ爲スハ差支無之儀ト心得可然哉

指令

第二條何之通

(理由)監視ニ附セラレタル者貸席業ヲ營ミ或ハ群集ノ場所ニ於テ商業ヲ爲スノ件右ハ其生ヲ營ム爲メ此等ノ所爲ヲ爲ス者ハ刑法附則中酒宴遊興ノ席ニ會シ群集ノ場所ニ參會スルト其趣意ヲ異ニスルニ因リ之ヲ禁セサルモ差支ナキ儀ト考量ス

○群馬縣

十五年三月三日同
全年全月廿四日指令

刑法附則第廿七條第三十條ニ他ノ地方トアルハ勿論他府縣

下ヲ指ス義ニ候得ハ不得止旅行スルノ原則ニ付行商人又ハ
人力車夫ノ如キ旅行ヲ職業トスル者ト雖モ許可ス可キ筋ニ
ハ無之儀ト心得可然哉又ハ行商人人力車夫ノ類接近スル他
ノ地方幅濶ノ爲メ平素該地ニ出入セサレハ其業ヲ營ミ難キ
者ハ則チ不得止者ニ付請願ニヨリ一ヶ月或ハ二ヶ月ヲ限リ
其理由ヲ附シタル旅券ヲ豫メ渡シ置キ候モ不苦哉

但本條ノ者管内ニ於テ往復營業スル者ハ適宜ノ法ヲ定メ
監視致シ可然哉

指令

行商人人力車等ノ其住所ニ接近シタル他ノ地方ニ出入スル
ニ非レハ業ヲ營ミ難キモノハ許可スルモ若シカラス但シ一
泊以上ニ及フ者ハ規則ニ從ヒ旅券ヲ給ス可シ
但書監視ノ規則ニ從ヒ取締ヲ爲ス可シ

(理由)第二十七條第四項他地方ニ旅行トハ眞ノ旅行ヲ謂フ
者ニシテ行商人人力車夫等ノ營業ノ爲メ自己住所ニ接近
シタル他地方ニ出入スルハ(旅券ヲ給スルニ及ハス)無論之
ヲ許サハルヲ得スト考量候

○鹿兒島縣

十五年三月十日同
全年四月十四日指令

監視ニ附セラレタル者他ノ地方ニ旅行ノ義ハ客歲第六十七
號布告刑法附則第二十七條第四項及第三十條第三十一條ニ
載テ明文有之被監視者ニ旅行ヲ許サハルハ法文ノ精神ニシ
テ己ムヲ得サル時ニ限リ許可スル者ナル處其被監視者中
船乘飛脚行商營業上旅行ヲ常トスル者ハ孰レモ己ムヲ得サ
ル者ト見做シ其旅行ヲ許可シ可然哉果シテ許可スル者トセ
ハ其航海途中寄港陸地滞在等ノ都合有之往復日數并滞留時
日共限定シ難キニ付其事實ヲ具シ出願候節ハ審判許可ノ上

該指令書ヲ攜帶爲致別段旅券附與セスシテ可然哉實際處分
方ニ差支候

指令

伺之趣旅行ヲ許可スルモ苦シカラス但被監視者ヲシテ畧ホ
旅行滯留日數等ヲ豫定セシメ其旅券ヲ付與ス可シ若シ旅行
中不得止事故ニテ淹滯シタル時ハ其事由ヲ警察署ニ具申セ
シムヘシ

(理由)被監視者船乘飛脚行商等ヲ營業スル者ニテ常ニ旅行
ヲ要スルハ已ムヲ得サル者ト見做シ其旅行ヲ許可シ然ル
ヘシ又此等ノ者ノ旅行ヲ許可スルニハ旅行航海寄港滯留
并ニ其日數等限定シタルニ旅券ヲ附與セスシテ單ニ無限
ノ旅行航海ヲ許可スル指令書ヲ攜帶セシムルノ例トナル
井ハ往々被監視者ノ監視ヲ免ルハ弊害釀成ス可シト考量

ス依テ右ノ通

○熊本縣

十五年五月十八日同
全年六月十三日付内務省合議

第三條同則第二十七條第二項酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集
ノ場所ニ參會スルヲ許サストハ妓樓或ハ割烹店ニ至リ他人
ト開宴スル等ヲ云ヒ群集ノ場所トハ神佛ノ祭典或ハ政談演
說會其他諸興行等ノ遊戯ニ參會スル者ヲ制禁シタル者ニシ
テ假令親屬冠婚等ノ賀宴及葬祭等ノ席ニ參會他人ト集合飲
酒シ其他說教所或ハ學術演說會等ニ臨場スル等ハ無論本項
ノ限外ト相心得可然哉

指令

第三條冠婚葬祭其他說教所學術演說會ト雖モ實際酒宴遊興
ノ席又ハ群集ノ場所ト看做スヘキ場合ハ刑法附則第二十七
條第二項ニ依ル儀ト心得可シ

○神奈川縣

十五年七月十一日同
全年八月三十一日內務省官議

刑法附則第二十七條及全第三十條第三十一條等ヲ參考スルニ監視ニ付セラレタル者ハ一般人民トモ相違シ一層監視ヲ加フ可キ者ニシテ外國ハ固ヨリ假令內國タリトモ遠隔ノ島岐等警察署アラサル地ヘ旅行ノ義差許候テハ監護上不行届モ有之ヘクニ據リ決シテ許可セサル者ト相考候得共聊カ疑團ヲ生シ候

指令

伺フ趣警察所アラサル地ニ於テハ戶長警察ノ事務ヲ行フ可キニ付旅行差許シ苦シカラス
但外國旅行ハ差許サル儀ト心得可シ

○札幌縣

十五年五月十二日同
全九月廿一日內務司法連帶

第一條刑法附則第二十七條ノ第一項ニ毎月二度所轄ノ警察

所ニ至リ謹慎ヲ表スル爲メ監視ノ證憑ヲ出シ官吏ノ認印ヲ可受云々ト有之處當縣下ノ如キハ未タ警察分署ノ設置普カラス其所轄警察署ニ至ルノ間三泊或ハ四泊ヲ要スル里程ノ場所アリト雖モ毎月兩度監視ノ證票ヲ出スハ警察所ニ限ル義ニ候哉右ニテハ一ヶ月兩度ノ往復日數殆ント半月ヲ費シ營業上大ニ差響ヲ生ス可クニ付所轄警察署ヲ距ル一泊以上ヲ要スルノ場合ニ於テハ其地ノ郡所役又ハ戶長役場ニ於テ證票ヲ差出シ認印ヲ受クル議ハ相成ラス候哉

指令

第一條後段伺ノ通執行シ苦シカラズ

○松江始審廳判事

十五年九月五日同
全十月十六日內訓內務省合議

刑法附則第二十七條第一毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シトアリ

然ルニ島根縣ニ於テハ別紙監視票裏面ノ如ク一度ハ一日ヨリ十五日マテ一度ハ十六日ヨリ其月中云々ト限レリ今爰ニ前半月中監視ニ附セラレタル者ノ如キハ其監視表授受ノ際謹慎ノ意ヲ表シタル者トナシ其月下半月一度ノミ出頭スル者乎又ハ上半月ニ相當スル一度モ出頭スル者乎

内訓

伺ノ趣後段見込ノ通

○松江始審廳判事

十五年十月三十日伺
全年十二月十二日内訓内務省合議

先般第十九號ヲ以テ監視規則ノ義ニ付上層前半月中ニ監視ニ付セラレタル者ノ如キハ其監視表授受ノ際謹慎ノ意ヲ表シタル者トシ其月下半月一度ノミ出頭スル者乎又ハ上半月ニ相當スル一度モ出頭スル者乎云々相伺ヒタルニ御省第五七二六號ヲ以テ後段見込ノ通ト内訓相成候處今マ後半段ノ

如ク出頭スル者トセハ茲ニ月ノ十四日ヨリ監視ニ付スベキ者ニテ其日監視ヲ授受シタル者アリトセンニ上半月ノ日數少カニ一日間ナルモ尙ホ一度ハ出頭セザルヲ得ザル可ク又之ヲ類推スル時八月ノ十六日ニ監視期日滿ツ可キ者モ其日ニ尙一回出頭セザルヲ得ザルベク若此ノ者ノ場合ニ於テ出頭セザルハ刑法ニ因リ處斷セザルベカラザル者ノ如シ然ルニ監視規則ノ正條タル刑法附則第二十七條ニハ偏ヘニ毎月二度所轄警察署ニ到リ云々トアリテ一ヶ月毎ニ其月毎ニ二度所轄警察署ニ到リ云々トアリテ一ヶ月ニ滿タル時モ亦全ジ等ノ明文アルナシ故ニ其毎月トアルハ每一ヶ月毎ニシテ其月毎ニ二度警察署ニ到リ云々ノ旨趣ナルベシ然ルニ其月十四日ニ監視ニ付セラレタル者又ハ其月十六日ニ監視滿期ノ者ト同視シ警察署へ出頭謹慎ノ意ヲ表ス可キモノト

シ其出頭セザル者ヲ刑法ニ處スルハ聊カ不穩當ヤニ相覺ヘ
候ニ付固ヨリ右監視規則ノ如キハ行政ノ處分ニ屬スルモノ
ナレトモ重テ相伺候

内訓

監視規則ノ義ニ付再伺ノ趣ハ前内訓ノ通心得可シ但シ十六
日ニ滿期ノ者ハ別段其日ニ出頭スルニ及バズ

○岡崎始審裁判所檢事

十五年十二月二十日請訓
十六年一月八日内訓

第一條昨十四年第六十七號公布刑法附則第二章第廿七條第
四ニ擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス云々トアリ其自他
ノ區別ハ縣ノ内外ヲ以テスヘキモノト思考ス然レモ右ニテ
ハ實際視察ノ充分届カサル等恐レモ可有之何トナレハ其一
縣内ノ管轄ハ大概數十里ノ遠キニ距ルヘク其如斯遠路被監
視者ヲシテ自由徘徊タラシメハ途中宿泊スヘキ等ノ下モ自

然之アルヘク從テ是レ等カ視察方ハ餘程困難ヲ生スヘク而
已ナラス被監視者ヲシテ如斯自由ヲ得セシメハ却テ該犯者
カ再ヒ罪ヲ犯スニ至ルノ慮モ亦ナカルヘカラス且折角監視
規則ヲ設ケ被監視者ヲシテ將來善良ニ導キ再ヒ惡意ヲ發ス
ル下ナカラシムル豫防ノ原則ニモ悖リ該規則ハ徒勞ニ屬ス
カ如キ様ノ儀モ生スヘク依テ仍ホ思考スルニ其視察ハ警察
署ニアリ從テ自他ノ區別モ又警察署ノ管轄内外ヲ以テスヘ
キモノニハ無之哉ト疑團ヲ生シ候

内訓

第一條前段見込ノ通

○石川縣

十六年一月十九日伺
全年二月廿八日指令内務省合議

刑法附則第二十七條第四項ニ他ノ地方云々ト有之ハ他府縣
ヲ指稱スル旨當テ御指令ニ付テハ監視中管内甲警察署被監

視入乙警察署區内へ數日滯留致度旨申出ルモ旅券付與スルノ限リニ無之ト雖モ本縣下ノ如キハ甲乙警察署ノ距里四十里餘ニ渉ル箇所モ有之從テ旅行中日間ヲ要シ管ニ甲乙兩縣ノ相隔タルノ比ニアラズ實際取締上相立タサルハ勿論ニ付管内旅行ト雖モ同規則第二十五條ヲ適用シ旅券ヲ付與シ其滯留地所轄ノ警察署ニ於テ監視執行爲致度差掛リタル義モ有之候條至急何分ノ御指令相成度此段相伺候也

指令

伺ノ趣刑法附則ニ從ヒ旅券ヲ附與スルノ限ニ在ラス但シ乙警察署ニ通牒シ取締上相當ノ手續ヲ爲スハ格別ナリトス

○山梨縣

十五年五月三十日
十六年三月 日內務司法連帶

第三項同則第二十七條監視人遵守條件第一項ニ毎月二度トアリ右ハ警察所ニ於テ豫メ出頭ノ期日ヲ相定メ置キ可然哉

第六項同則第四十四條特別監視人遵守スルキ條件第四項ニ
一 日程ヲ過クル地ニ旅行スルト夫許サストアリ右一日程トハ例ヘハ犯人住居ノ地ヨリ八里ノ地ニ至リ一泊シ歸宅スルカ如キモノナルヤ又ハ片道四里ヲ限リトシ他ニ宿泊セシメサル律意ニ有之候哉

第七項同則第二十七條第三十條第三十一條第四十四條ニア
ル官吏トハ警部警部補迄ヲ指シタルモノニ候哉又ハ巡查モ含有シ候哉

第八項特別監視人其遵守スルキ條件ニ違犯スルモノハ刑法
第百五十五條ニ依リ處分スルモノト相心得可然哉

第三項伺ノ通

第六項豫メ里數ノ制限ヲ設ケス一日中ニ往復スレハ許可ス

ル精神ナリ

右ハ内務省ヨリ參事院へ質問ノ上指令ナリタリ

第七條前項何ノ通

第八項何ノ通

○千葉始審裁判所八日市場支廳檢事十六年三月廿二日請訓
全年四月五日內訓

本年二月七日付第六七一號內訓文中右ハ監視ヲ執行スヘキ
地ノ官署トハ裁判所並ヒニ警察署ヲ總稱シタルモノナリヤ
將タ單ニ警察署ノミヲ稱シタルモノナルヤ

内訓

請訓之趣ハ前段見込ノ通

○長崎縣十五年四月廿九日何
同年月日指令

第一條刑法附則第二十七條第二項酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ
群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サストハ親戚他人ノ別ヲ問ハ

ス一切不相成哉又ハ公衆ト共ニ酒宴又ハ遊興ヲ爲シ或ハ其
群集ノ場所ニ參會スルコトヲ得サル儀ニテ其親戚ノ賀宴又ハ
法會等ノ如キ其義務ニ因テ參會セサルヲ得サル節ハタトヒ
酒宴又ハ他人數集會セシ場所ト雖モ參會不苦義ニ候哉

指令

第一條前段何ノ通

但親戚ノ賀宴又ハ法會等ノ如キ時ト雖モ酒宴遊興ノ席又
ハ群集ノ場所ト看做スヘキ場合亦同シ

○三重縣十五年八月二十三日何
全年十月二十一日指令

第二條全上第二章第二十七條第二項ハ快樂ヲ禁スルノ主義
ニ可有之就テハ他人ノ會スルニ非ス一人ニテ妓樓ニ登リ又
ハ料理屋ニ到リテ愉快ヲ極メ神佛祭禮ニテ群集雜沓ノ場所
ニ到ル等モ右第二項ノ限内ト心得可然哉

但本文未文ノ場所ト雖其目的敢テ快樂ヲ求ルニアラス
シテ偏ニ信仰上ニアルニ於テハ右第二項ノ限外ト心得可
然哉

指令

第二條何之通

但書單ニ信仰上ニ出ルモ神佛祭禮等群集ノ場所ニ參會ス
ルヲ得ス

○札幌縣 十五年八月二日
全年八月十五日電信指令

刑法附則第二十七條第四項ニ擅ニ他ノ地方エ旅行スルトチ
許ルサストアリ右他ノ地方ト指スハ犯人住居地府縣内外チ
問ハス往復一日程ヲ過クル地ヘ許可ヲ得ス擅ニ旅行スルト
チ得サル儀ト相心得可然哉

指令

何之趣他ノ地方トハ犯人ノ住居スル府縣ノ管轄地外ヲ指ス
儀ト心得可シ

○長崎縣 十五年四月二十九日
全年四月二十九日指令

第二條前全條第四項擅ニ他ノ地方ニ旅行スルトチ許サス若
シ己ムトチ得サル事故アルハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許
可ヲ受クヘシト有之右旅行トハ往返一日程ヲ過クル地ニ到
ルチ指稱シタル儀ニ候ヤ又ハ其住居ノ地ノ警察署又ハ分署
ノ管轄外ニ出ル者チ指稱シタル儀ニ候哉

指令

第二條縣ノ管轄外ノ地方チ指ス

○静岡縣 十五年六月十七日
全年七月二十四日指令

刑法附則第二十七條第四項及ヒ第三十條ニ他ノ地方トアル
ハ犯人住居地ノ警察署又ハ分署所轄ノ區域外チ指シタルモ

ノ(日販スルハ本條ノ限外)ト見解致居候處本年三月廿二日附
石川縣質問ニ答タル參事院ノ辨明ニ依レハ他ノ地方トアル
ハ則チ他ノ府縣ヲ謂フ云々ト有之果シテ辨明ノ如クナレハ
管下濱松警察署ト下田警察署ノ如キハ其里程殆ト六十里モ
隔リ居候然ニ被監視者擅ニ旅行候テハ監視難行屆義ト存候
右取締方如何相心得可然ヤ

指令

書面他ノ地方トアルハ他ノ府縣ノ義ト心得可シ

但取締方ハ刑法附則第二章ノ各條ニ依リ適用ス可シ

○岐阜縣

十五年三月三十日
全年八月廿九日内務司法連帶

第三項同則第二十七條第四項他ノ地方ニ旅行スルヲ許サ
ストアリ右ハ被監視人所在ノ一府又ハ一縣管轄内ナレハ數
日ニ渉ル旅行ニテモ警察署ノ許可ヲ受クルニ及ハズヤ被監

視人ノ内人力車輓ノ如キ營業ヲナスモノハ日々數府縣ニ經
歴セサルヲ得サレモ一々許可ヲ經サレハ他府縣下ニ渉ルヲ
得サル義ナリヤ

指令

第三項何之通

但他府縣ヲ經歷スルモ一泊以上ニ至ラサル者ハ警察署ノ
許可ヲ受クルニ及ハズ

○岐阜縣

十五年七月廿八日請訓
全年八月二十九日内訓

監視期限ノ儀モ主刑同様其執行ヲ脱シタル日數ハ期限ニ算
入セス再犯未決監ニ入り審問中ノ如キハ全日數ヲ期限ニ算
入スル事ニ有之旨本年六月七日付監第三十一號請訓書ハ全
十六日電報ヲ以テ御訓示ノ趣拜承仕候然ルニ主刑執行中在
監スルモノト異ナリ其加除計算方ニ困ミ候間不分明ノ廉左

三列記候

第一條監視ニ付ス可キモノ警察官ヨリ旅券ヲ付與シ何年何月何日ニ歸宅スヘシト命シタリ(今試ニ五日間ニ歸宅スルモノト假定ス)然ルニ外ニ在テ酒宴ノ席ニ會シ又群集ノ場所ニ參會スル如キ監視規則ヲ犯シ(歸宅ハ豫定ノ五日間トナシ其期日ニハ警察署ニ出テ認印ヲ受ケタリ)後日右違犯ノ事件發覺シタルモノハ別ニ期限ニ關係無之若シ其犯則ノ爲メ豫定ノ日數外ニ出タル片ハ其出タル日數ノミ期限ニ算入シ得サル儀ト心得可然乎

第二條在宅監視執行中ノモノモ前第一條ノ區別ニ從ヒ差支無之

第三條監視期限中止ムテ得サルノ事故アリ警察官ヘ申告シ許可ヲ受ケ他ノ地方ヘ旅行中規則ヲ違犯シタルモノモ前同様期限ヲ扣除シ可然カ

第四條前條若シ潛カニ他出シ執行ヲ脱シタルモノノ如キハ何レテ限界トナスヘキヤ若シ其年月日分明ナラサル片ハ最終ニ警察官ノ認印ヲ受ケタル日ニテモ基トナスヘキヤ

内訓

伺ノ趣監視ノ規則ヲ犯ス年月日數ハ期限ニ算入セス潛カニ他出シタル者ハ他出ノ日ヨリ期限ヲ中止スル儀トス

但審問中ノ日數モ期限ニ算入セサルヲ以テ先度ノ指令ハ取消候事

第三十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ依リ其家宅ニ臨檢スルヲアルヘシ

二〇愛媛縣 十五年一月十六日同 全年七月十七日内務省合議

全則第二十八條家宅臨檢ハ勿論夜間モ苦シカラス義ニ有之候哉

指令

伺ノ通

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヲ許可シタル時
其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載
シタル書類ヲ遞送スヘシ

○岐阜縣

十五年三月三十日同
全年八月廿九日内務省合議

第二項全則第二十五條第二十九條ニ書類ヲ遞送ス可シトア
リテ其手續分明ナラス一々脚夫ヲ備ツテ遞送スレハ其費用
實ニ小少ニアラス又郵便ニ付スレハ土地ニ依リテハ到達ス
ヘキ日數甚タ延滞スルヲアリ殊ニ僻地ヲ然リトス然ルニ被
監視人ハ里程ニ應旅行日數定限アル故ニ先ニ到着シテ所轄
警察署ニ届出ルモ警察署ニ於テハ右證據書類ノ到達延滞ニ
ヨリ監視票ヲ下付スル因由モナク如何トモ爲シ難キ場合有

之右ハ如何取計可然哉

指令

第二項警察遞傳又ハ郵便等費用ノ嵩マサル様適宜處分スヘ
シ

○福井縣

十五年十月廿四日同
全年十二月六日内務省合議

茲ニ監視ニ附セラレタル者アリ其期限中甲警察所ヨリ乙警
察所又ハ甲ヨリ乙縣ヘ住居ヲ轉スル時ハ刑法附則第二十九
條ニ依リ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十二條ニ
記載シタル書類ヲ遞送スルニ止ツテ旅券ヲ附與スルニ不及
儀ニ可有之哉果シテ然カリトセハ纒カノ里程ニ幾日費スモ
責ムルノ道無之實際取締上ニモ關係スル義ニ付全則第二十
五條ヲ適用シ旅券ヲ附與シ可然義ニ可有之哉

指令

後段伺入通

○岐阜縣 十五年四月十日内務省へ伺
全年五月三十日指令

第八條刑法附則第二十九條ノ住居ヲ轉スル時ノ旅券雛形御
達面ニ無之右ハ刑法附則第二十五條ニ依リ下付スル書式ニ
準擬シテ可然カ

指令

第八條伺之通

○警視廳 十五年六月十六日
全年六月三十日指令

刑法附則第二十六條ニヨリ監視票下附セシ者事故アリテ住
所移轉ヲ願出許可シタルトキハ全則第二十九條ノ手續ヲ爲
シ而シテ轉住先警察署ニ於テハ更ニ監視票ヲ下附スル儀ニ
可有之就テハ最初下付シタル監視票ハ他ノ書類ト共ニ轉住
先警察署へ送付スル儀ト思考候得共一般ニ關スル事件ニ付

爲念相伺候

指令

書面伺之通

但更ニ下付スル監視票へ轉住シタルトキ書添ヘシ

第三十條

他ノ地方ニ旅行スルトキ許可シタル時ハ其里程

ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シ

テ旅券ヲ付與スヘシ

犯人先方ノ地ニ到レバ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官

吏ニ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察

所ニ還納スヘシ

○長崎縣 十五年四月二十九日伺
全年六月九日内務省合議

第三條同則第三十條第二項犯人先方ノ地ニ到レバ其地ノ警

察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸

來リ直ニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シト有之候處其旅行日數
數月ニ涉ルト雖_ル其滯留地所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎(毎月ニ
規ヲ)ヲ表スルニ不及義ニ候哉

指令

第三條滯留地所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ヲ表スヘシ

○新瀉縣 十五年五月十五日同
全年九月十四日內務省合議

第四條同第三十條ニ他ノ地方ニ旅行スル_トヲ許可シタル時
ハ云々旅券ヲ附與スベシトアリ之レニ依テ之ヲ觀レハ他ノ
地方ニアラザレバ旅券ヲ附與セザル者ノ如シ若シ然ラバ他
ノ地方ニアラザレバ一泊或ハ數泊ニ涉ルモ旅券ヲ附與セザ
ル儀ニ候哉

指令

第四條其府縣管轄地内ナル時ハ見込ノ通り

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滯シタル
時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着
ノ上旅券ニ添へ警察所へ差出スヘシ

○愛媛縣 十五年二月廿八日同
全年三月廿二日指令

同法第三十一條旅行中天災又ハ疾病ニ依リ臨時淹滯シタル
時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ云々ト
有之若シ淹滯ノ地ニ警察署又ハ分署及巡查交番所無之時ハ
隔地ノ警察署ニ具申シ證書ヲ受ケ可キ儀ニ有之候哉果シテ
然ラハ徒ラニ往復ノ日子ヲ費シ且本則取締ノ道モ反テ難相
立様相成候_ンハ歎ト思考致候間前顯ノ場合ニ於テハ其地戶
長ノ證書ヲ受ケ候儀ト相心得可然哉

指令

第二項不得止場合ニ於テハ伺ノ通

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ於テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

十四年十二月廿八日内閣書記官ヨリ正誤

第三十三條ノ(懲治場ニ留置)ハ監獄中ノ別房ニ留置ノ誤

○福岡縣 十四年三月六日同 全年六月二日内務省合議

第二項同則第三十二條監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人カ未時ハ其期限間監獄中別房ニ留置シ云々トアリ犯人住居及ヒ引取人アルモ遠地ニテ途中旅費所持セサル者ハ警察署ヨリ附與スル旅券ヲ以途中村役場等ニ於テ練替拂ニテ追テ本人ヨリ返戻セシメ若シ逃走ヲナシ返戻スルヲ得サル時ハ其親戚或ハ犯人住居地ノ町村ヨリ仕拂可然哉又ハ旅費金所持セサル者ハ引取人無之者ト見做監獄ノ別房ハ留置可然

哉

指令

第二項 第三十二條末段ノ通心得可シ

○茨城縣

十五年十月二日同 全年十一月十三日内務連帶

第二條監獄則第二十七條第二項ハ監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金品ヲ録シテ共ニ其地ノ警察官(治罪法第六十條第三項ニ記)ニ送致スハシトアルニ依リ領置セシ金錢ハ總テ携帶セシムルヲ得サル義ニ可有之然ルハ刑法附則ニ從ヒ最近ノ警察所ニ於テ送致ノ手續ヲナシ旅券ヲ付與スルモ金錢ハ携帶セシメサルニヨリ住居ノ地遠地ニ在ル時ハ其ノ地ニ歸着スルノ費用(止宿料等)ナキヲ以テ歸着スルヲ能ハサル者アリ右等ノ場合ニ於テハ如何取扱可然哉

指令

第二條 路程ヲ計リ必用ノ路費ヲ與フヘク餘ノ金錢ハ監獄則

第二十條 未領ニ據ル可シ

○石川縣 十六年二月七日同
同年三月廿四日指令内務連帶

被監視者旅行中不虞ノ災害ニ罹ル旅費等ヲ失シ事由明確自

ラ進退シ能ハサル者有之時ハ刑法附則第三十二條ニ照準シ

其地監獄署ハ送致スル儀ニ心得可然哉最モ被監視者發着地

内執シカ接近ナル場合ニ於テハ其接近警察署ハ護送スル

モ差問ナキ哉

指令 第二十二條 第二項ハ通書ニ前掲ナク金錢ハ出

何之通

○愛媛縣 十六年三月十日同
十六年三月十六日附電報指令

本月北田電報御指令但書滞在在在ノ警察署ニ通牒取締次第相

増ノ手續ヲ爲スハ格別ナル旨了承然ルニ縣内ハ無届旅行ニ

付未滞在在在知悉由右ハ必去ラズ届出候様相違差問

オキ哉

○指令 山形縣 十六年三月十日同

本月十日附電信何ハ何ノ通書ヲ苦シカラス

第三十三條 徵治場ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住

居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期

ノ監視ヲ執行セシム

○指令 十六年三月廿八日同

第三十三條ノ徵治場ニ留置ハ(監獄中ノ別房ニ留置)ノ誤

第三十四條ノ刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付

ス合キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス

合キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ

執行スル

○和歌山縣

十五年七月廿日
同年九月八日指令

刑法附則第三十四條中監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ主刑滿期ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シト有之候處茲ニ監視限内其監視規則ヲ犯ス者アリ右ハ其犯者ヲ逮捕シタルヨリ裁判宣告迄ノ日數即チ豫審中拘留保釋責付セラレタル日數ノ如キハ刑期間ト同シク殘ル監視ノ日數へ算入スヘカラサル儀ト相心得可然哉

指令

同ノ趣拘留中ノ日數ハ期限ニ算入スルヲ得ス責付保釋ニ係ル者ハ直ニ監視ヲ執行ス可キ儀ト心得可シ

○和歌山始審廳檢事

十五年十月
同年九月廿七日指令

曩キニ監視期限計算ノ儀ニ付別紙甲號ノ通相伺ヒ朱書ノ通御指令ヲ受ケ候處和歌山縣へハ別紙乙號朱書ノ通御指令相

成居候右ハ何レニ從ヒ可然哉更ニ相伺候也(乙號和歌山縣
同ハ先ニ出ツ)

甲號

○和歌山始審廳檢事

十五年七月十八日
同年九月廿七日指令

第一條監視ニ付セラレタル者監視ノ期限中再ヒ罪ヲ犯スニ因リ逮捕入監シタル時ハ監視ヲ執行セサルヲ以テ右逮捕入監中ノ時日ハ監視期限内ニ算入セサル義ニ有之候哉
第二條前條監視ノ期限中再ヒ罪ヲ犯スニ因リ逮捕入監セラレタル者保釋若クハ責付ヲ得タル時モ亦其保釋責付ノ時日ヲ監視限内ニ算入セサル義ニ有之候哉
甲號 指令同之通

指令

監視ヲ執行セサル日數ハ拘留保釋責付ヲ分タス監視期附内ニ算入セス但責付保釋ニ係ル者ハ實際監視ヲ執行シ得ヘキ

三付乙號通和歌山縣へ指令シタル者トス

○京都府 十五年十二月十四日 同年六月廿三日指令

第一條監視期限内其規則ニ違背シ又ハ他ニ罪ヲ犯シ(監視ノ附加ナキ犯

罪ヲ)重禁錮等ニ處セラル、者アリ右ハ該主刑滿限ノ後ハ殘

餘ノ監視ヲ執行セサルヲ不得因テ此場合ニ於テモ亦更ニ刑

法附則第二十二條第二十三條等ノ手續ヲ履行スルニキ義ト必

得可然哉

第三條刑ヲ執行ハ總テ檢察官ヨリ指揮アル儀ニ付前條殘餘

以監視執行ニ付テモ典獄ニ對シ檢察官ヨリ更ニ指揮アルハ

勿論又殘期日數モ共ニ通知アル者ト相心得可然哉

○指令 十五年六月廿七日 同年六月十六日電報指令

第一條第二條伺ノ通

如○岐阜縣 十五年六月七日伺 同年六月十六日電報指令

刑法第六十條ニ監視ハ期滿免除ヲ得ストアリ又刑法附則第

三十四條ニ監視ハ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付スル判

時ハ主刑滿期ニ後前後ハ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行スルシ

ト之ヲ別茲ニ四月三十日主刑滿期ニテ六月ノ監視ニ付セ

ラレ然ルニ(即十月廿七日監視滿期ニ當リ)然ルニ五月三十日家出シ永ク踪跡

ヲ得ス其年十二月一日ニ至リテ捕ニ就キ審理ノ末十二月十

一日監視規則ニ犯シタル罪ニテ重禁錮十五日ニ處セラレ右

ノ如キハ重禁錮十五日ハ主刑滿期後更ニ殘期五ヶ月(五月十日

ヨリ三十日)ノ監視ヲ執行スルニキ哉又ハ逃走セシモ刑期ヲ計

算スル如ク捕ニ就キタルヨリ處斷マデ(十五年一月一日ヨリ)ノ日數ハ

監視期限ニ算入可キヤ

○指令 十五年六月廿七日 同年六月十六日電報指令

本月七日付伺ハ捕ニ就キタルヨリ處斷マテノ日數ハ期限ニ

算入ス可シ

○兵庫縣

十五年八月八日
同年九月五日指令

第三條監視期限間其規則ニ違背シ又ハ餘罪ヲ犯シ(監視ノ附加ナキ犯罪ヲ云フ)若干月ノ禁錮ニ處セラル、モノアリ其主刑滿期ノ後ハ殘餘ノ監視ヲ執行セサル可ラス而シテ主刑ノ期限ハ監視期限ニ算入スルヲ得サルハ勿論ナルヘシト雖モ其犯罪審問ノ日數ハ責付保釋ト勾留トノ場合ヲ問ハス監視期限ニ算入スルヲ得ル儀ニ有之候哉

第四條前條若シ審問日數ハ總テ監視期限ニ算入セサル歟又ハ責付保釋勾留ノ場合ニ依リ其算入スルト否トノ別アル時ハ典獄及ヒ警察官ニ於テハ殘餘ノ監視期限ノ其幾許ナルヲ知ルニ由ナク右ハ檢察官ヨリ典獄ニ通知シ典獄ヨリ警察官ニ通知スヘキ筋ニ有之候哉

第五條第三條主刑ノ終リタル時ハ典獄ニ於テ仍本刑法附則第二十二條ニ依リ犯人ヲ其住居ノ他ノ警察署ニ送致スヘキモノナルヤ將タ其犯人ハ仍ホ監視期限中ナルヲ以テ其住所ニ歸リ殘餘ノ監視ヲ受クヘキハ當然ナルニ由リ直ニ放免スヘキモノナルヤ若シ後段見解ノ如クナルハ警察署ニ於テハ犯人ノ歸郷ヲ知ルニ由ナキヲ以テ典獄ヨリ放免ノ上警察署ニ通知スヘキ筋ニ有之候ヤ

指令
第三條拘留中ノ日數ハ期限ニ算入スルヲ得ス責付保釋ニ係ル者ハ實際監視ヲ執行シタル中ハ期限ニ算入シ之ヲ執行セサル者ハ算入スヘカラス
第四條前條指令ニ依リ了解スヘシ
第五條前段伺之通

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付スヘキ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入スヘシ

○前橋輕罪廳檢事 十五年八月十四日同 全年九月十一日指令

第二條刑法附則第三十五條ニ罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ニ算入スヘシト有之候處刑法主刑處分ノ各條中換禁錮者ヲ監視ニ付スルノ明文ナキニ因テ本條ハ刑法第九十九條、如キヲ犯シ罰金ノ主刑及以監視ヲ附加刑ニ處セラレ限内納完スル能ハズシテ禁錮ニ換ヘラタル者及以刑罰處分ヲ示シタル者ニ心得可然哉 續ニ裁量ノ範圍ヲ變々ハキハ當然ナルニ由リ罰金ニ換ヘラタリテ其罪人ハ罰金納付後其罪中セキニ以テ其罰金第二條罰金ノ刑ニ處セラレ以テ刑罰者ハ刑法第九十九條ノ場合ニ雖モ監視ニ付ス可キ者ニ非ス但シ刑法附則第三十五條

六禁錮罰金ト併科セラレ又ハ禁錮ニ處セラレタル者刑期中更ニ罰金ヲ科セラレタル者限内納完スルヲ能ハサル場合等ニ適用スル所アル可キ儀ト心得スルニ付テハ前記

○新瀉縣 十五年十一月十八日同 全年九月二十日指令

茲ニ犯罪人アリ重禁錮ニ處シ及ヒ監視ニ付セラレタリ然ルニ本犯之ヨリ先罰金四圓ト處セラレタルモ之ヲ納完スル能ハサレテ以テ本犯ノ求メニ依リ右監視期限間ニ四日ノ禁錮(四日)ノ日數只監視ノ期限ニ算入スヘキ哉

警備 指令總令へ具報ニ關シヨリ又内務省監獄課へ上申スヘキ 伺之趣刑法附則第三十五條ヲ通心得スルニ付テハ上申ノ際其ハ第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ悔改ノ狀アル時ハ警察署ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受テ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

○福島縣

十五年一月九日同
全年二月十日指令

第二條第三十六條ニ監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ
悛改ノ狀アルルハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿
ノ命ヲ受ケ假ニ監視ヲ免スルヲ得トアリ右上申ノ順序ハ
警部ヨリ縣令ヘ具狀シ縣令ヨリ内務司法兩卿ヘ上申スヘキ
儀ト相心得可然哉

指令

第二條警察官ヨリ直チニ内務司法兩卿ヘ上申スヘキ儀ト心
得可シ

○愛媛縣

十五年一月十六日同
全年七月十七日内務省合議

第十一條同則第三十六條假ニ監視ヲ免サレタルトキハ前ニ
下付セシ監視票ハ取揚クヘキ義ニ候哉將タ其儘致シ置ク可
キ哉

指令

第一條其儘ニ致シ置ク可シ

○青森縣

十五年七月一日同
全年九月十四日内務省合議

刑法附則第三十六條ニ監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守
シ悛改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩
卿ノ命ヲ受ケ假ニ監視ヲ免スルヲ得ト之レアリ右上申ノ
順序ハ警察官吏ヨリ直ニ兩卿ニ上申シ命ヲ受クヘキ儀ト解
釋セラルト雖モ各警察分署ノ取扱寛嚴區々ノ弊ヲ豫防ス
ル爲メ鄭重ヲ加ヘ小官ニ於テ調査ノ上具狀スルヲ得ルハ勿
論ノ儀ト存候得共爲念此段相伺候也

指令

書面警察官吏ヨリ具狀スル義ト心得可シ

但寛嚴區々ノ弊ヲ豫防スル爲メ地方長官之ヲ調査スルコ

其法得... 〇岡山縣 十五年十月三十一日 〇滋賀縣 十五年一月十九日 〇滋賀縣 十五年三月二十八日

第一條 刑法附則第三十六條ニ監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ候改メ狀ニ於時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申云々ト
又右ハ直ニ止申スルヨ法時々許サレタル義ニ候ハ小官
ヲ經由シテ上申スルニ及ハス無論其相心得候得共間々各警
察分署ヨリ巡査ニ警部補代理ヲ命シタル者有之右ハ假令巡
査タルトモ前書警部補同様ノ任ヲ負ハセ有之者ニ候得此
等ノ者ヨリ直チニ上申爲致可然哉
第三條 前條ノ上申御許可ヲ得テ假ニ監視ヲ免シタル者若シ
行狀不取締ト確乎見認ムル時ニ於テ小官ヨリ再ヒ監視申付
可主乎或ハ警察官限申付ケ可然哉
第三條 前條再監視申付ケタル時御届ケ致スニ不及義乎

指 令

第三條 何之通

第三條 第三條 假ニ監視ヲ免シタル者行狀不取締ト見認ムル
時ハ警察官ニ於テ再ヒ監視ヲ申付其旨ヲ内務司法兩卿ニ
届出可シ

〇滋賀縣 十五年一月十九日 〇滋賀縣 十五年三月二十八日

第三條 第一章 第二十六條ニ監視ニ付セラレタル者其規則ヲ
遵守シ候改メ狀アルハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ云々ト
又右ハ所管警察署警部ヨリ直ニ内務司法兩卿ニ上申スル
義ニ候哉
指令 岡山縣 〇滋賀縣

第三條 何之通

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ

第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フヘシ

第十二款

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許スヘキ者アル時ハ獄司ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレンコトヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受クヘシ

第三十九條 假出獄ヲ許スヘキ時ハ典獄ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付スヘシ

○内務省

番外達十五年四月四日
集治監典獄廳府縣典獄

已決ノ囚ニ假ニ出獄ヲ許ストキハ別紙書式ニ倣ヒ宣告狀附與ス可シ此旨相達候事

假出獄宣告狀

某管下國郡町村番地某子弟

妻女族籍

何

某

某年月日生
明治何年何月何日何ヶ月

其方儀明治何年月日某裁判所ニ於テ何刑若干期ノ言渡テ受ケ來ル明治何年月日ニ至テハ滿期ノ處其受刑以來能ク獄則ヲ謹守シ改悛ノ狀相顯ハレ本刑々期モ已ニ四分ノ三ヲ經過ス由テ其筋ノ允許ヲ受ケ假出獄差許候事

某
集治監
監獄署

年 月 日 典獄某印

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載スヘシ

- 一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日
- 二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事
- 三 假出獄中ハ特別監視ニ付スヘキ事

四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

○岐阜縣 十五年一月二十日內務司法連帶
全年三月十五日指令

第二條假出獄ノ証票ハ刑法附則第三十九條ニ從ヒ典獄ノ名ヲ用フヘキ義勿論ト心得可然ヤ

指令

第二條何之通

但監獄則三屬セシ証票ノ記式ニ從ヒ詳具スルキハ勿論ナ

ルヘシ

○靜岡縣 十五年二月十四日內務省(何
全年三月一日指令)

刑法附則第四十條ニ假出獄証票記載例有之第二項ニ殘何年云々トアリ監獄則中假出獄證票樣本ニハ右明文無之就テハ監獄則ノ證票樣本中刑名刑期及ヒ附加刑ノ次へ(此者ハ殘期

何年何月何日間假出獄ヲ許スルノ一項ヲ插入シ可然ヤ

指令

書面何之通

○愛媛縣 十五年一月十六日何
全年七月十七日內務省合議

第十二條目則第四十條假出獄ハ昨十四年第八十一號達監獄則中ノ者トハ少シク差違アルカ如シト雖モ矢張監獄則中ノ者ヲ用ヒ可然哉

指令

假出獄票ハ彼此異ナルコトナシ

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財產ヲ治メ若クハ職業ヲ營メントスル時ハ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

○愛媛縣 十五年一月十六日何
全年七月十七日內務省合議

第十三條同則第四十一條ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察署ニ申請シ許可ヲ受クベシトアリ而テ刑法第五十五條ニハ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得トアレハ勿論全部ニハ及バザル義ニ有之候ヤ果シテ然ラバ其幾分ト云フニハ制限アルモノナルヤ又警察署ニ於テ許可スルハ其見込ニヨリ幾分即チ云々ノ事ヲ許ス旨該願書ヘ記載ス可キ義ニ有之候哉

指令

第十三條末段何之通

○愛媛縣

十五年五月四日伺
全年六月廿八日内務省合議

第一條刑法附則第四十一條重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察署ニ申請シ許可ヲ受クベシトアリ而シテ監獄則第二十八條ニ

ハ假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其刑期限間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ云々ト有之右ハ其營業ノ方法ハ典獄之ヲ指示シ本人ヨリハ更ニ警察署ニ申請シ警察官之ヲ許可スル義ニ候哉

指令

第一條警察所ニ於テ營業ノ許可ヲ受ケタル上ハ典獄ヨリ其方法ヲ指示スルヲアルモ更ニ警察署ニ申請スルニ及バズ
第四十二條 假出獄ヲ許スヘキ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日獄司ヨリ其證票ノ謄本ヲ添ヘ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシムヘシ

十五年八月十二日第四十二號布告改正

假出獄ヲ許スヘキ者ハ豫メ住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其證票ノ謄本ヲ添ヘ第二十二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護

送シ特別監視ヲ執行セシムヘシ
第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條
第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用
ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條
件ヲ遵守スヘシ

一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監
視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ但疾病又ハ已ム
ヲ得ザル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事
由ヲ届出ツヘシ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許
サズ

三 事故アリテ往居ヲ移轉セントスル時ハ警察所ニ申請シ

許可ヲ受クヘシ但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サズ

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サズ

○大分縣 十五年八月十五日何
全年九月十四日指令

第三條同則第四十四條第四項ニ往復一日程ヲ過クル地ニ旅
行スルヲ許サスト有之右ハ一日程ヲ過キザレバ他ノ府縣(管

境近傍ニ居住シ二三里以
内ニテ他管ニ到ルノ類)ニ到ルモ差支ナキ哉

第三條何ノ通

但宿泊スルヲ許サズ

○静岡縣 十五年十月十二日何
全年十一月一日指令

第一條特別監視ニ付セラレシ者逃走シタル時ハ主刑滿限
至ラサル者ナルヲ以テ無論己決囚徒ト認メ刑法第四百十
二條ニ據リ其罪ヲ治スル儀ト相心得可然哉

第二條果シテ前條ノ見解ノ如クスル時ハ特別監視ニ付セラレ逃走ヲ爲シタル罪ヲ治スルノ道アリト雖モ其逃走スルニアラズシテ刑法附則第四十四條ノ各項ニ觸ル、所爲アル時ハ如何處分シ可然哉

指令

何ノ趣兩條トモ刑法附則第一百五十五條ヲ以テ論ス可キ者トス刑法第四百二十二條ハ囚禁セラレタル囚徒ノ逃走シタル者ヲ罰スル法ト心得ヘシ

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ依リ其家宅ニ臨檢スルコトアルヘシ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル獄司ニ遞送スヘシ

主刑滿限ノ後監視ニ付スヘキ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分スヘシ

○愛媛縣

十五年一月十六日同
全年七月十七日内務省合議

第十四條同則第四十六條末項ノ場合ニ於テ假出獄證ヲ典獄ニ遞送シ其典獄ヨリハ更ニ第二十三條ノ書類ヲ送付スヘキ義ニ候哉果シテ然ラハ右書類到達セサル内モ警察官ハ第二章ノ例ニ從ヒ取扱置可然哉

指令

第十四條刑法附則第四十三條ニ依リ第二十三條ノ書類ハ假出獄者ト共ニ典獄ヨリ犯人住居ノ地ノ警察官ヘ送附スヘキヲ以テ警察官ニ於テハ主刑滿限ノ日更ニ右書類ノ送附ヲ受クルモノニ非ス直ニ第二章ニ依リ取扱フ可シ

○京都府

十五年三月三十一日同
全年五月十日指令内務省合議

第三項刑法附則第四十六條ニ假出獄ヲ許サレタル者刑期満限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察署ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル典獄ニ遞送スヘシトアリテ又監獄則假出獄ノ證票ニ此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何地ヘ約子何日迄ニ到着シテ即時其地ノ警察官ニ届出テ此證書ヲ納メタル上云々ト有之是ニ由テ之ヲ觀レハ爨ニ獄司ヨリ下付セラレタル證票ハ已ニ警察所ニ納メタル者ニテ最早犯人ノ手ニハ無之筈ナリ然ルニ刑期満限ノ日ニ至リ尙又右證票ヲ警察所ヘ還納セシムル様相見ヘ取扱方疑義ヲ生シ候ニ付如何相心得可然哉

指令

第三項監獄則假出獄證票離形中ニ納メタル云々トアルハ唯之ヲ警察官ニ差出シ閱覽ニ供スルニ止リ還納スル義ニアラ

ス

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置スヘシ

十四年八月二十八日内閣書記官ヨリ正誤

第四十七條ノ(懲治場ニ留置)ハ監獄中ノ別房ニ留置ノ誤

○京都府 十五年三月三十一日尙全年五月十日内務省合議

第四項刑法附則第四十七條ニ假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別房ニ留置ス可シトアリテ全第三十二條ニハ監視ニ附スル者住居ナク及ヒ引取人ナキトキハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦全シト有之然ルニ全第三十三條ニ監中ノ別房ニ留置シタル云々トアルハ右兩條ニ關セシ者ニテ假出獄及ヒ

特別監視ニ附スヘキ月モ住居遠地ニ在テ其歸着スル資力ヲ得タル時ハ又其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可キ義ト相考ルモ右第四十七條ニ住居遠地ニ在テ歸着云々ノ明文無之ヨリ聊カ疑團ヲ生シ候

指令

第四項刑法附則第三十二條ト第三十三條ト全樣處分スル儀ト心得ヘシ

(理由第四十七條ニ住居遠地云々ノ明文ナキモ第三十二條ノ例ニ從ヒ云々トアレハ本文ノ通ニテ妨ケナカルヘシ

刑法執行便覽畢

右刑法執行便覽書森縣人源者石塚氏撰其功可謂勤矣近世法家碩學之士相繼不絕刑法之註釋其刊行頗多撰執行之書不別其各余每以為恨今迺獲見氏之撰信乎時不乏人而憾余聞之亦早也然若

氏所撰宣傳於世而久益于法
 家蓋其螢雪之功非僅此畫之
 上粹也
 明治廿二年二月於大森禪菴
 東窓下 非佛居士 印

明治廿二年三月十一日印刷
 全 廿二年三月十二日出版

著者兼 青森縣平民
 發行 石塚源吉

東京神田區富山町十一番地
 秦野己之太郎方寄留



印刷者 山形縣士族 小林誠



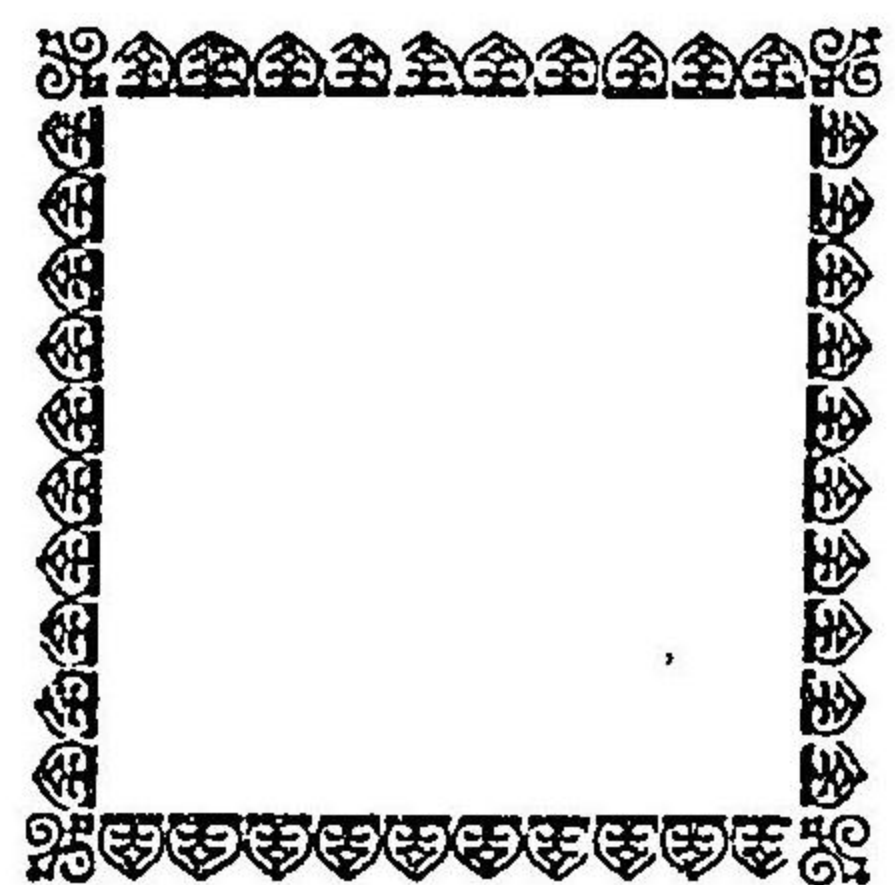
全神田區猿樂町二丁目八番地
 前野幸八方寄留

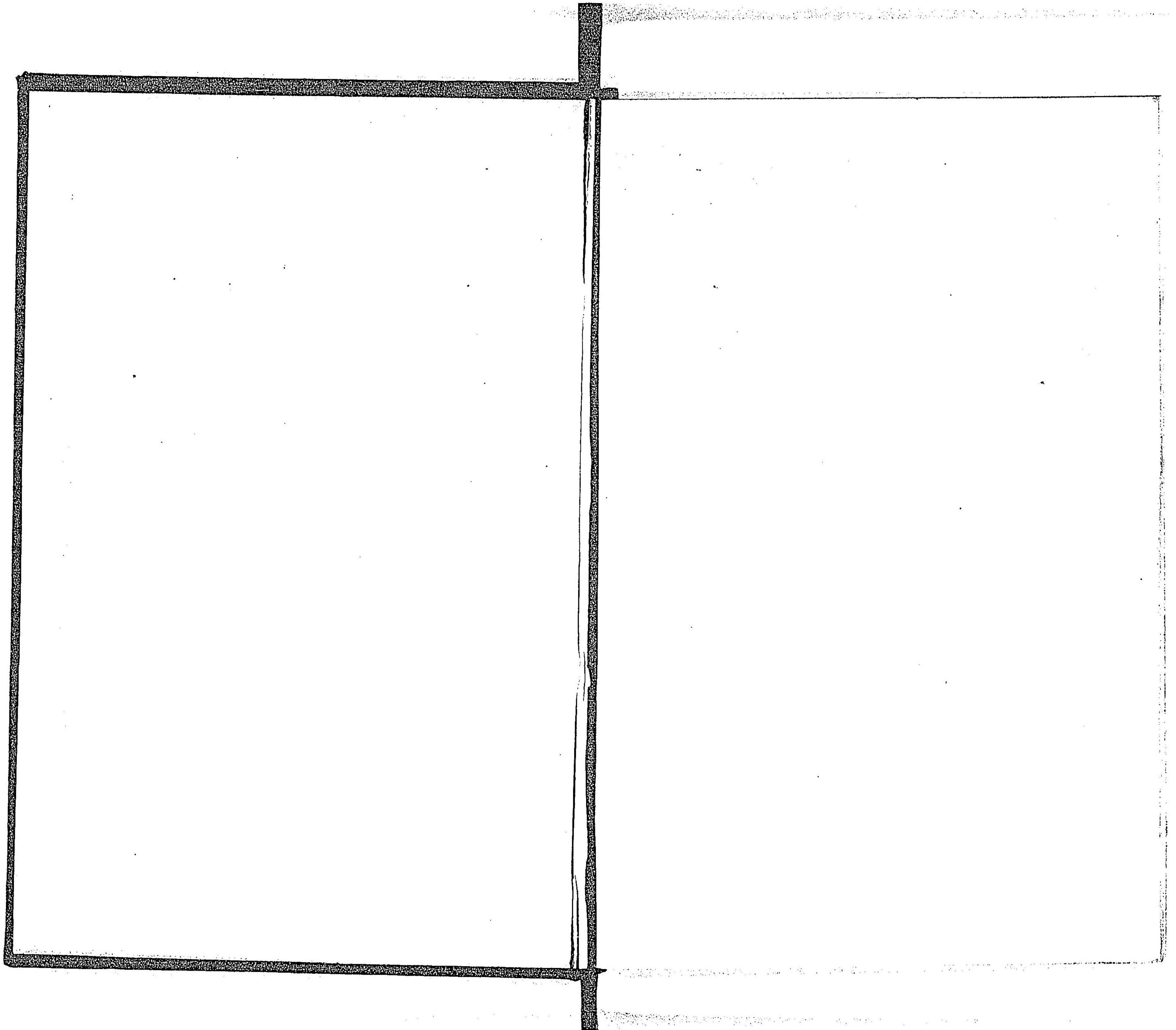
發行所 協洋出版所

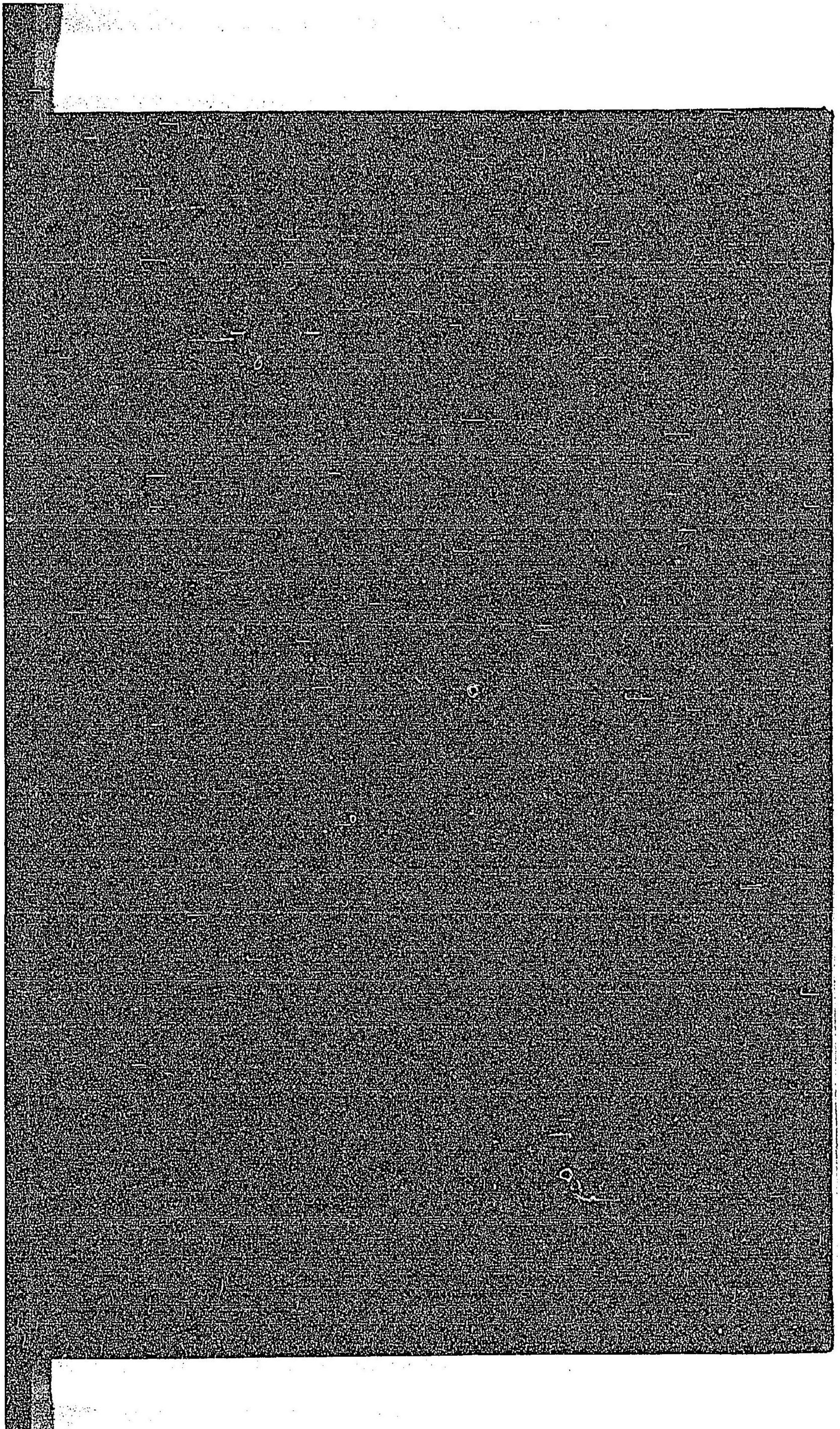
全淺草區西三筋町四十六番地

印刷所 國文社

全京橋區新橋總十郎町十
 五番地









035732-000-1

特15-942

刑法執行便覽

石塚 源吉/編

M22

BBP-0307



